

沼津市地域公共交通協議会

令和 5 年度 沼津市地域公共交通計画の中間評価について

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1. 概要 | p2 |
| 2. 計画の進捗管理について | p3～4 |
| 3. 計画の目標の達成状況と考察 | p5～13 |
| 4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 | p14～28 |

1. 概要

地域の特性や概要

- JR東海道本線とJR御殿場線の2路線の在来線に4駅が整備されている。
- 路線バスは主に3事業者が運行し、JR沼津駅を起点に放射状に整備されており、市中心部においては概ね高い運行水準が確保されている一方で、郊外を運行する路線を中心に赤字路線も多い。
- タクシーは11社が運行している。
- 自家用車への依存率は高く、人口減少も伴って公共交通の利用も減少傾向にある。

沼津市地域公共交通計画

(令和2年3月策定、令和4年2月改定)

【基本方針】「行きたいまち、住みたいまち。」
～公共交通の改善により、選ばれるまちへ～

【計画期間】

6カ年（令和2年4月～令和8年3月）

本市公共交通の課題を解決するための施策パッケージ“プロジェクト6”の事業期間を6年に設定

【計画目標】

- ① おでかけの手段として選ばれる公共交通
- ② 市民とともに支え育む公共交通
- ③ まちのにぎわいをサポートする公共交通

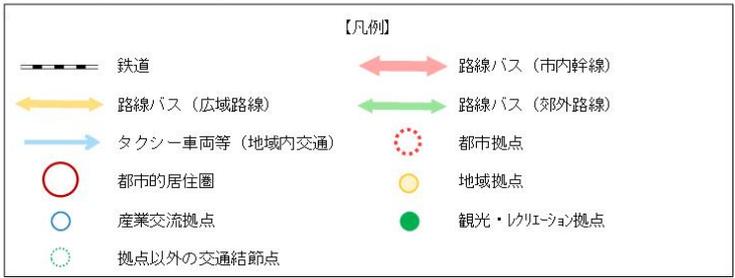
- I. 公共交通軸形成プロジェクト
- II. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト
- III. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト
- IV. 楽しいおでかけ創出プロジェクト
- V. 沼津駅・沼津港連携プロジェクト
- VI. いつでも安心・安全プロジェクト

地域公共交通ネットワークのイメージ図



地域公共交通の課題

- 課題1：公共交通軸が不明確
- 課題2：地域内交通が不十分
- 課題3：利便性向上への取り組みが不足
- 課題4：事業者間連携が不足
- 課題5：拠点間の連携が不足



2. 計画の進歩管理について

計画の進捗管理、評価スケジュール

- ・本計画は、計画策定（Plan）、施策・事業の実施（Do）、進捗管理・評価（Check）、見直し・改善（Action）を繰り返す、P D C Aサイクルの考え方により推進していくが、このP D C Aの実践にあたっては、実施する時期、実施主体、実施する内容（何をチェックして改善していくのか）を明確にして進めることが成功の鍵となる。
- ・表に示すとおり、長期スパン及び年間単位において計画の進捗管理、評価の実践を次年度以降に行っていく。

<長期スパンにおける進捗管理、評価スケジュール>

	前期		中期				後期		後期				
	R2年度 (2020)		R3年度 (2021)		R4年度 (2022)		R5年度 (2023)		R6年度 (2024)		R7年度 (2025)		R8~ (2026~)
	前期	後期											
施策実施確認	事業実施												
内容の評価 (プロセス評価)	実施状況の確認・評価		反映										
目標の達成 状況の評価 (効果の評価)	毎年確認可能な数値のチェック				中間年の目標達成状況評価						最終年の目標達成状況評価		
課題共有	実施の課題共有												
改善と反映	次年度実施の改善と反映												



<計画・中間年>
目標達成状況の評価

計画の達成状況と評価

計画目標 1：おでかけの手段として選ばれる公共交通
2：市民とともに支え育む公共交通
3：まちのにぎわいをサポートする公共交通

- ・本計画に位置付けた3つの計画目標に対する評価指標として、以下①～③の3つの指標を設定。
- ・毎年、進捗状況を把握し適切な管理を行うため、経年で取得しているデータにより実績値を算出。

指標① 公共交通利用回数

現況値：85回/年（平成30年度） → 目標値：88回/年（令和7年度）
〔公共交通利用者数 45,837人/日 → 45,900人/日〕

- ・公共交通の利用を増加させ、運行サービスの維持向上を目指す。
- ・このため、今後の人口減少の影響を考慮しても、公共交通利用者数を現状以上とするため、年間利用回数を3回増加させることを目標とする。

指標② まちなかへの来訪回数

現況値：40回/年（平成30年度） → 目標値：42回/年（令和7年度）
〔中心市街地歩行者通行量 63,851人/日 → 63,900人/日〕

- ・中心市街地への移動をスムーズにし、おでかけ機会を創出することで、まちのにぎわいに寄与することを目指す。
- ・このため、今後の人口減少の影響を考慮しても、中心市街地歩行者交通量を現状以上とするため、まちなかへの年間来訪回数を2回増加させることを目標とする。

指標③ 路線バス運行に係る収支差額

現況値：△434,022千円(令和2年度) → 目標値：△430,000千円以内(令和7年度)

- ・路線バスの運行効率改善とともに利便性の向上による利用者数の増加を目指す。
- ・令和2年から3年にかけては新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛により大幅に収入が減少していることを考慮し、今後の回復と施策による効果を加味し、バス3社平均の収支差額を現状より回復させることを目標とする。

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標①：公共交通利用回数

	住民基本台帳 人口4月（3月 末時点）（人）	市民一人あたり （回/年）	利用者数（人/日）			
			公共交通	（うち）鉄道	（うち）バス	（うち）タクシー
基準値（H30）	196,530	85	45,837	26,939	14,000	4,898
目標値（R7）	190,707（推定）	88	45,900	—	—	—
R4年度実績	190,417	72	37,686	22,706	11,337	3,643
基準年度比	—	84.7%	82.2%	84.3%	81.0%	74.4%
前年度比	—	107.5%	107.3%	108.6%	102.2%	116.6%
R3年度実績	192,644	67	35,133	20,917	11,092	3,124
基準年度比	—	78.8%	76.6%	77.6%	79.2%	63.8%
前年度比	—	108.1%	106.48%	103.3%	113.8%	104.0%

【考察】

A：コロナ前の傾向

→鉄道及びバスについては利用回数がほぼ横ばい。タクシーについては約3.0%利用者減の傾向。

B：コロナ禍の傾向→前年と比較し、利用者が回復傾向にある。

C：AとBの対比→新型コロナウイルスの影響による外出機会の減少や観光利用の低調等により、依然として利用が減少したままとなっている。

【今後の展開】

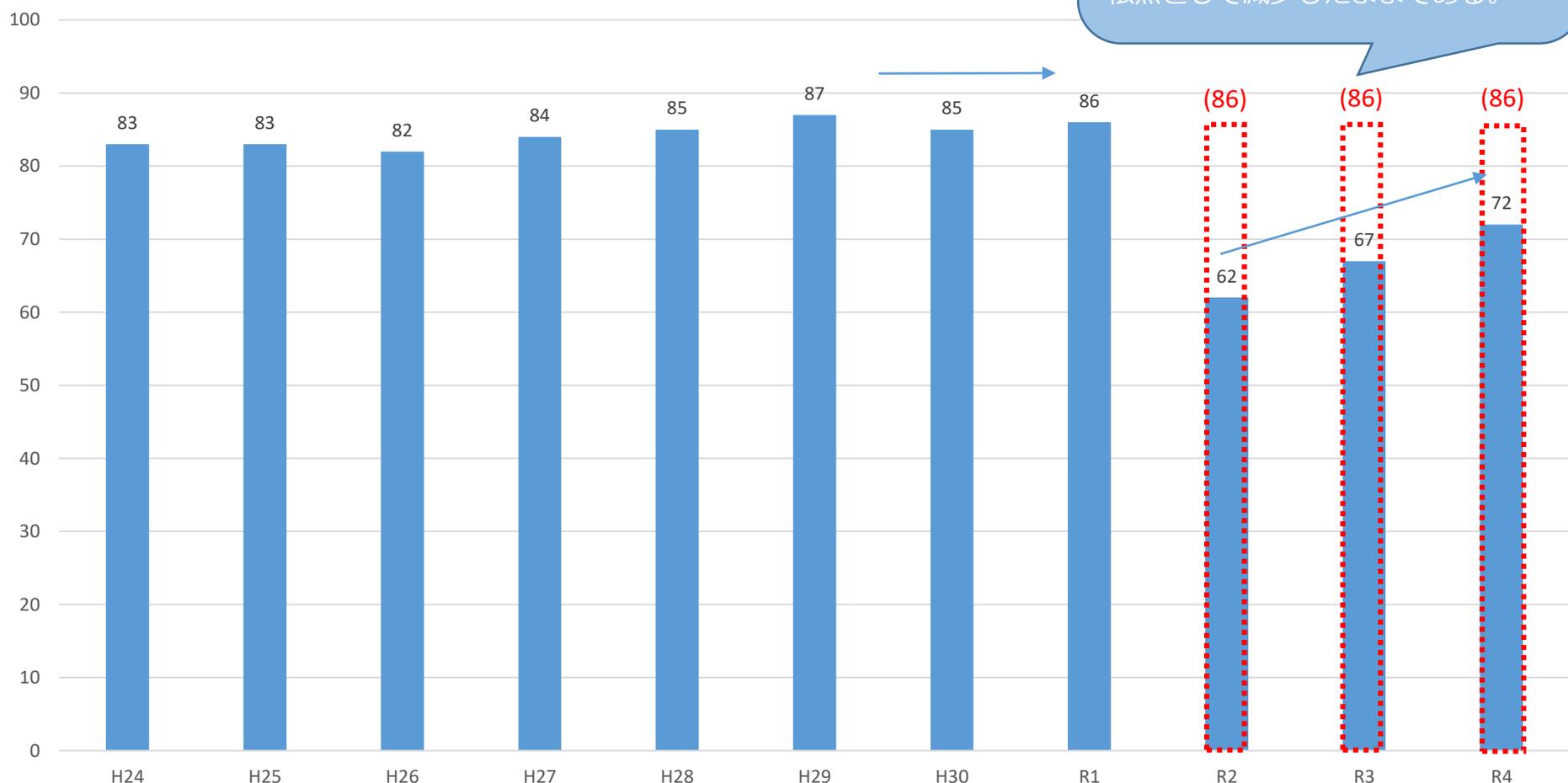
今年度実施の学生向けバスフリーパス「サンシャインパス」をはじめ、公共交通の利用促進施策を随時、展開していく。

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標①：公共交通利用回数

◆「公共交通※」：市民一人当たりの利用回数（回/年）

（※→鉄道、バス、タクシー）



【考察】

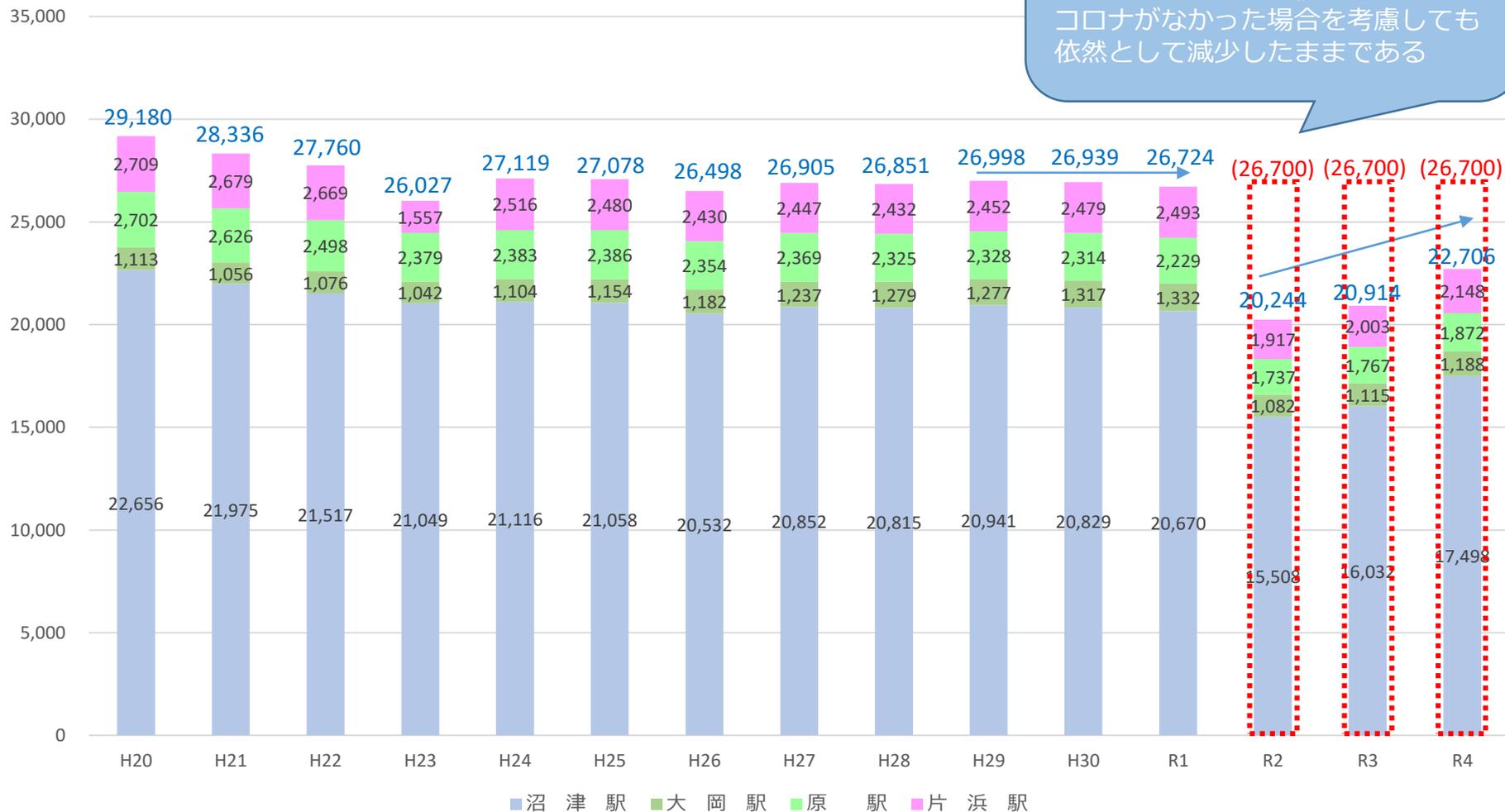
- ・コロナ前の傾向（H29~R1）
→ほぼ横ばい
- ・前年と比較し、回復傾向にあるが
コロナがなかった場合を考慮しても
依然として減少したままである。

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標①：公共交通利用回数

◆「鉄道」：一日の平均乗車人員（人/日）



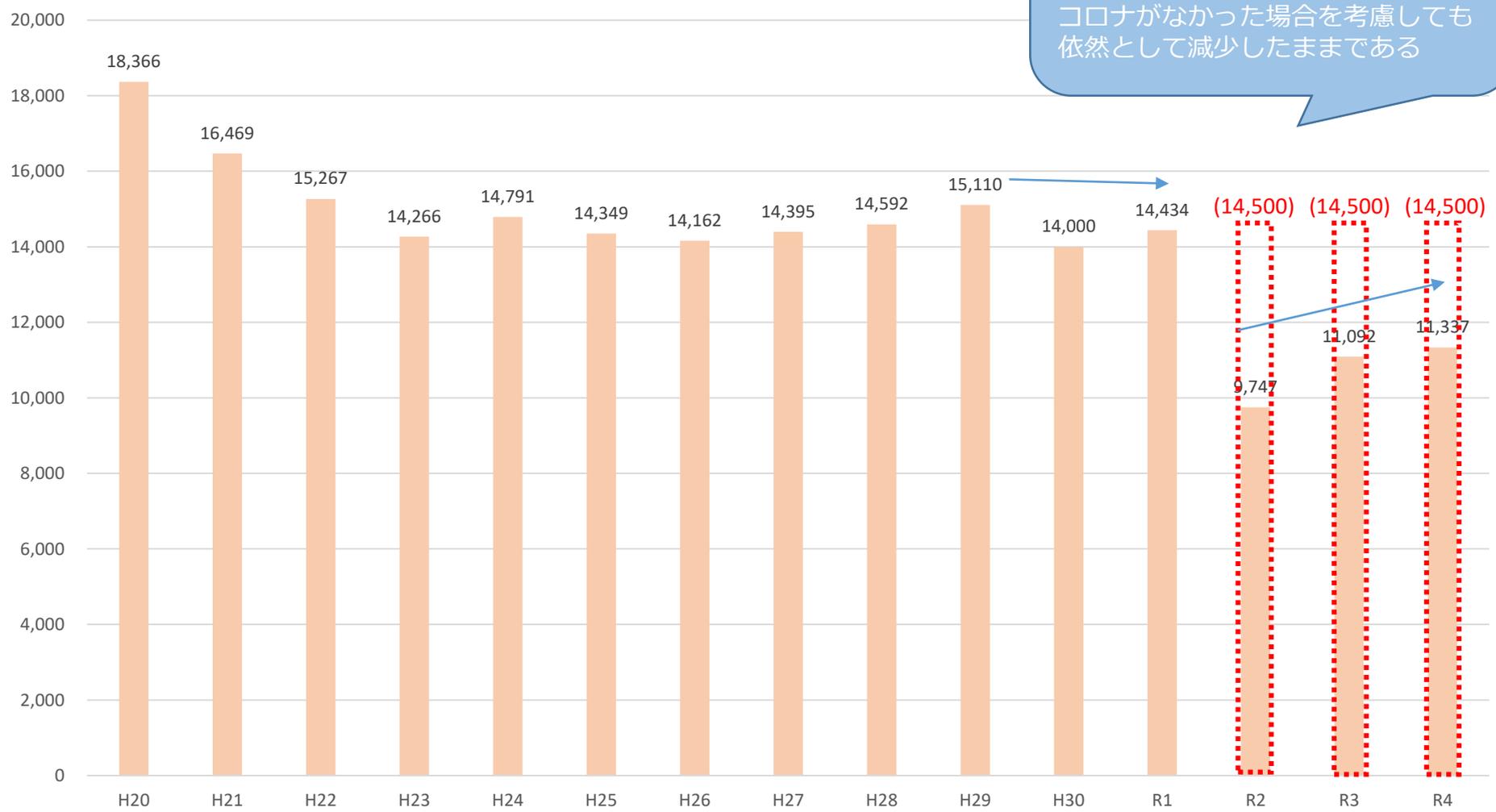
【考察】
 ・コロナ前の傾向（H29~R1）
 →ほぼ横ばい
 ・前年と比較し、回復傾向にあるが
 コロナがなかった場合を考慮しても
 依然として減少したままである

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計 ※青字：市内4駅の合計値

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標①：公共交通利用回数

◆「バス」：一日の平均乗車人員（人/日）



【考察】

- ・コロナ前の傾向（H29～R1）
→ほぼ横ばい
- ・前年と比較し、回復傾向にあるが
コロナがなかった場合を考慮しても
依然として減少したままである

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標①：公共交通利用回数

◆「タクシー」：一日の輸送人員（人/日）



【考察】
 ・コロナ前の傾向（H29～R1）
 →約3.0%利用者減
 ・前年と比較し、回復傾向にあるもののコロナがなかった場合を考慮すると依然として減少したままである。

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標②：まちなかへの来訪回数

	住民基本台帳人口4月（3月 末時点）（人）	市民一人あたり(回/年)	中心市街地歩行者通行量 （人/日）
基準値（H30）	196,530	40	63,851
目標値（R7）	190,707(推定)	42	63,900
R4年度実績	190,417	30	45,707
基準年度比	—	75.0%	71.6%
前年度比	—	111.1%	107.0%
R3年度実績	192,644	27	42,703
基準年度比	—	67.5%	66.9%
前年度比	—	93.1%	94.4%

【考察】

A：コロナ前の傾向→H27~R1の数値を平均すると通行量に変動はほぼ横ばい

B：コロナ禍の傾向→前年と比較し、回復傾向にある

C：AとBの対比→新型コロナウイルスの影響による外出機会の減少や観光利用の低調等により、依然として利用が減少したままとなっている。

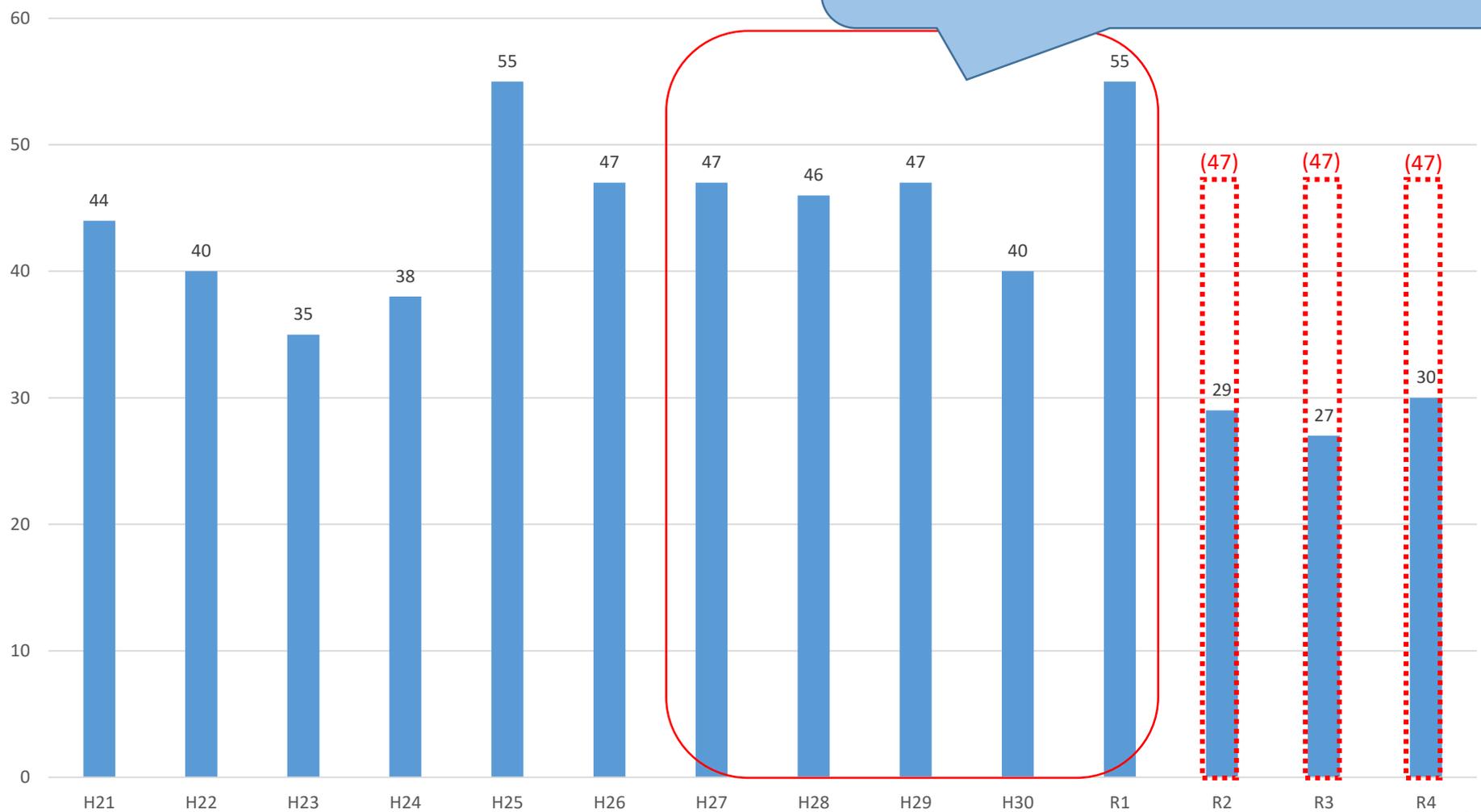
【今後の展開】

まちなかで開催される「週末の沼津」や「OPEN NUMAZU」のイベントに合わせて、バスの企画乗車券（バスの切符+ドリンク無料券）の発行等の施策を展開し、まちなかへの来訪回数増加へつなげる。今年度については、学生をターゲットに「サンシャインパス」を利用し、まちなかへ来てもらえるよう広報していく。

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標②：まちなかへの来訪回数

◆市民一人あたりの中心部来訪回数（回/年）



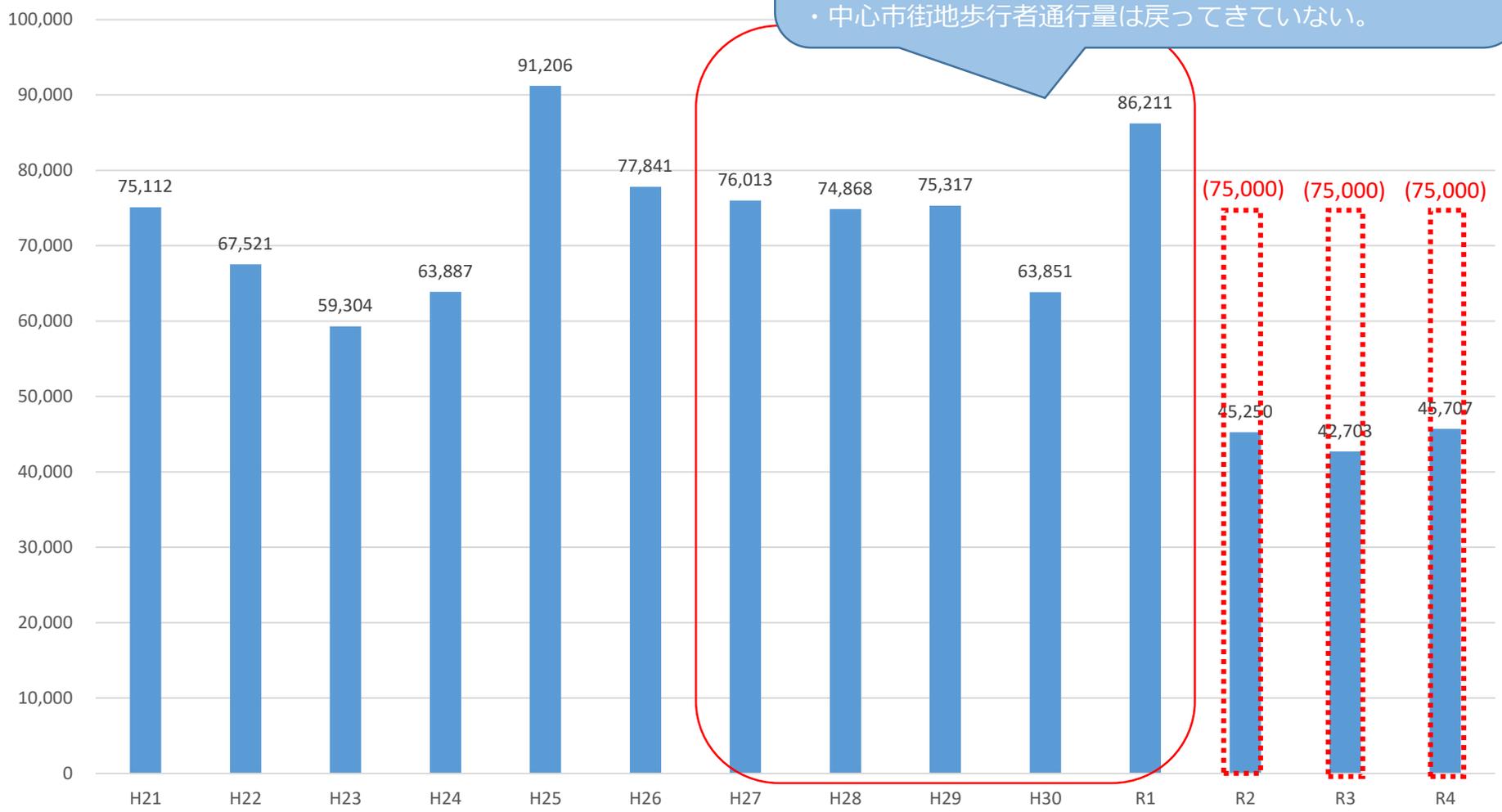
【考察】
 ・コロナ前の傾向（H27～R1）
 →変動はあるがH27～R1の数値を平均するとほぼ横ばい
 ・前年と比較し、回復傾向にあるがコロナがなかった場合を考慮しても依然として減少したままである。

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標②：まちなかへの来訪回数

◆中心市街地歩行者通行量（人/日）



【考察】

- ・コロナ前の傾向（H27～R1）
→変動はあるがH27～R1を平均するとほぼ横ばい
- ・前年と比較し、回復傾向にあるがコロナがなかった場合を考慮しても依然として減少したままである。
- ・中心市街地歩行者通行量は戻ってきていない。

※赤字：コロナの影響がなかった場合の推計

沼津市地域公共交通計画の指標・目標値および実績・考察

指標③：路線バス運行に係る収支差額

基準値 (R2年度) △434,022千円

目標値 (R7年度) △430,000千円以内

◆バス3社収支とりまとめ (実績)

R4年度：富士急シティバスにデータいただけていないため東海バス・伊豆箱根バスの合計です。

	系統数	走行キロ (km)	運送収入 (千円)		運送経費 (千円)		営業収支 (千円)	収支率 (%)
			キロあたり収入 (円)	キロあたり原価 (円)	キロあたり収入 (円)	キロあたり原価 (円)		
令和4年度	86	2,195,611.0	637,477	866,611	-229,134	73.6%		
令和3年度	130	3,138,428.1	792,993	1,285,472	-492,479	61.7%		
			252.7	409.6				
令和2年度 (基準値)	135	3,248,576.9	802,618	1,236,640	-434,022	64.9%		
			247.1	380.7				
令和元年度	-	-	1,066,151	1,275,621	-209,470	77.1%		
平成30年度	-	-	1,091,064	1,237,106	-146,042	82.8%		

【考察】

- ・ 運行経費：燃料費高騰などを理由に増大
- ・ キロあたりの原価：増加⇒営業収支悪化の原因
- ・ キロあたり収入：増加
- ・ 走行キロ：減少

※本指標は新規路線への支援の可否を判断するものではなく、収支差額とともに、収支改善状況や利用変化を把握することで、市内バス路線の健全性を総合的に判断するための指標である。

沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト外	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
I 公共交通軸形成	I-① ②	路線の集約・再編 運行頻度の確保	R3 R4	西部路線再編： R3協議、R4.4運行開始 南部路線再編： R4協議、R5.4運行開始	中心市街地の路線集約・再編に着手し利便性を図るとともに、周知を行うことで、利用促進に努める
	I-①	渋滞頻度の高い路線の渋滞解消対策検討（バスレーン・右左折レーン・PTPS等）	—	渋滞頻度の高い路線の渋滞解消対策について、各交通事業者と検討には至らなかった	議論すべき項目を洗い出し、各交通事業者と検討する
	I-①	人口集積地への路線の新設（大岡地区）	R3	R3：乗合デマンドタクシー実証実験。大岡地区における乗合運行の路線新設は、運行開始に向けた地元自治会での検討が続いており、R4は未実施	引き続き、運行開始に向けた地元自治会への支援を実施する
	I-③	公共交通軸における運行時間帯の拡充	—	最終バス以降の需要調査まで至らなかった	最終バス以降の需要を調査をし、深夜バスや深夜乗合タクシーについて検討・協議をしていく
	I-④	乗務員確保に向けた対策	—	乗務員の確保に向けて、若年層や女性などが働きやすい就業環境・勤務形態を検討するに至らなかった	乗務員の確保に向けて、乗務員募集について周知を図っていく

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

I. 公共交通軸形成プロジェクト

I-②公共交通軸における運行頻度の確保

市西部地区路線の再編【R3協議、R4運行開始】

【内容】

赤枠→地域内フィーダー系統

対象路線名	事業内容
ミューバス片浜駅循環	廃止（ららぽーと・原団地・原駅線及び片浜・柳沢線へ）
原団地線 （沼津駅・片浜駅線へ変更）	区間短縮（短縮部はららぽーと・原団地・原駅線へ統合）
ららぽーと・原団地・原駅線	原駅と原団地、片浜駅を経由し、ららぽーと沼津へ結ぶ路線の新設
ミューバス原駅循環	道路運送法21条実証運行終了（ミューバス原・浮島線へ）
ミューバス原・浮島線	原駅と根方街道沿いの地域を結ぶ往復路線の新設
柳沢線	一部系統廃止（片浜・柳沢線で補充）
片浜・柳沢線	片浜駅から柳沢までを結ぶ路線の新設
原線（地域間幹線）	原駅、片浜駅への乗入

【効果】

- ・路線の再編により、運行頻度の確保、また乗継回数の軽減による移動の所要時間や運賃の改善などの利便性向上
- ・幹線である原線や北部の根方街道沿いの路線と接続する地点では、運賃軽減策としての乗継割引を実施→ 利用促進
- ・利用状況に応じた運行の効率化
- ・利用実態は、16頁のとおり

【今後の展開】

- ・利用促進のため西部地区の住民に対し、チラシ等で各路線について周知を強化していく。
- ・路線沿いや近隣の商業施設、医療機関、公共施設等での周知を図っていく。
- ・R5年度は、片浜駅にデジタルサイネージを設置するなど、引き続き周知・利用促進に努める。



再編前



再編後



周知チラシ（市作成）

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

I. 公共交通軸形成プロジェクト

I-②公共交通軸における運行頻度の確保

◆ミューバス片浜循環（廃止）⇒ららぽーと・原団地・原駅線及び片浜・柳沢線（新設）

※R1~R3年度⇒原団地線のデータは含めていない

再編後の利用者
増加傾向

利用人数（人）



1便あたりの利用人員（人/回）

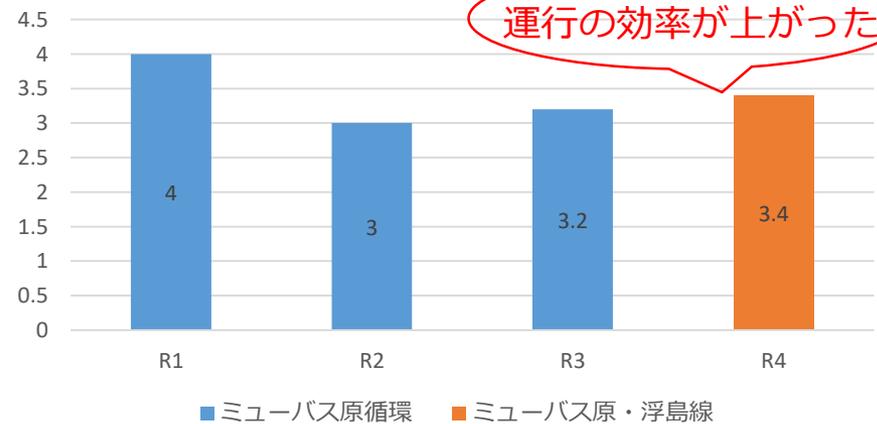


◆ミューバス原循環（廃止）⇒ミューバス原・浮島線（新設）

利用人数（人）



1便あたりの利用人員（人/回）

再編により一日の運行便数が
減ったため利用者は減少

運行の効率が上がった

沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
Ⅱ 公共交通 セーフティネット構築	Ⅱ-①	住民協議会支援 (大岡)	R3	R3: 乗合デマンドタクシー実証実験。大岡地区における乗合運行の路線新設は、運行開始に向けた地元自治会での検討が続いており、R4は未実施	引き続き、運行開始に向けた地元自治会への支援を実施する
		住民協議会支援 (戸田)	R4	戸田江梨線・戸田土肥線の運行計画変更に関して協議実施	南部路線⇒R5.4運行開始 地域住民の利用促進に努める
	Ⅱ-②	自主運行バス等の 路線再編・集約	R2~3 R4	R2~3: 南部路線の運行維持に係る見直し(西浦線<系統変更>、戸田江梨線<系統変更>、戸田土肥線<デマンド化>) R3:新規「ミューバス原・浮島線」運行計画作成 R4:南部路線の運行計画変更に関して協議実施	南部路線⇒R5.4運行開始 利用実態を把握し、運行の見直しを随時行い効率的な運行に努める
	Ⅱ-③	タクシーの活用	R3	大岡地区の運行開始について、地元自治会の検討が続いているため未実施	多様なニーズに対応したタクシーの活用について検討する
	Ⅱ-④	バリアフリー車両の 導入推進	順次	利用促進を図るため、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーの導入を推進	引き続き、バリアフリー車両導入の推進をしていく

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

I. 公共交通軸形成プロジェクト

I-②公共交通軸における運行頻度の確保

II. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト

II-②自主運行バス等の路線再編・集約

市南部地区運行維持に係る見直し【R2・3】 市南部地区路線の再編【R4協議、R5運行開始】

【内容】

対象路線名	事業内容
西浦線	<ul style="list-style-type: none"> ・系統変更（廃止「沼津駅～長井崎小中一貫学校～戸田」、新設「沼津駅～長井崎小中一貫学校～江梨」・「沼津駅～長井崎小中一貫学校入口～木負農協」）【R3】 ・江梨-木負農協間の一部便の乗合タクシー化（路線バスから乗合タクシーへダウンサイジング）【R4】
西浦線 伊豆長岡駅線	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津駅南口3番乗り場 西浦・伊豆長岡駅方面のパターンダイヤ化・等間隔運行【R4】
戸田・江梨線	<ul style="list-style-type: none"> ・系統変更（新規「戸田-木負農協（さなぎ峠経由）」）【R3】 ・西浦線の江梨-木負農協間の一部便の乗合タクシー化【R4】 ・路線不定期運行の廃止および区域運行の開始【R4】 ・運賃改定および沼津市民は従来の運賃で乗車可、差額を市が負担【R4】
戸田・土肥線	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド化（R3年度の乗合率を鑑み、利用実態にあった運行に切替）【R3】 ・土肥港フェリーターミナルへの路線延長フェリー運航ダイヤとの調整【R4】

【見込まれる効果】

- ・長期路線である西浦線のスリム化により、まちなかでの運行本数を維持
- ・利用状況に応じた運行の効率化（路線バスから乗合タクシーへダウンサイジング）

【今後の展開】

- ・R4に西浦線、戸田江梨線、戸田土肥線の運行計画の変更を協議→R5～利用実態を把握し、運行の見直しを随時行い効率的な運行に努める。

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

Ⅱ. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト

Ⅱ-①住民協議会支援（大岡地区）

地区内循環タクシー（大岡コミタク号）運行【R3】

【内容】

公共交通不便地域の解消による住民の利便向上、公共交通の活性化を図るため、大岡地区において、伊豆箱根交通株式会社と連携して乗合デマンドタクシーの運行を実施。

【R3年度に実証運行を実施（市補助にて支援）】

運行期間：R3.4.1～R3.9.30

運行日数：79日（週3日（火・木・土））

運行区域：主に大岡地区内（バス停86箇所）

対象旅客：大岡地区住民

ダイヤ：1日10便（8時台～17時台）

運賃：1乗車200円（小学生以下100円）

【結果】

運行本数：430便（1日平均5.4便）

延べ利用人数：818人（1便平均1.9人）

収支率：26.3%

大岡地区 予約制乗合タクシー（デマンドタクシー）

運行版 大岡コミタク号

実証運行 予定期間 2021年 4月1日(木)～2021年 9月30日(木)

まずは会員登録
 ●大岡地区にお住まいの方で「大岡コミタク号」のご利用には、事前に会員登録（無料）が必要です。
 会員登録に関するお問い合わせ先：大岡地区センター ☎055-924-0299

●運行スケジュール（火曜日・木曜日・土曜日のみ）
 時刻表 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

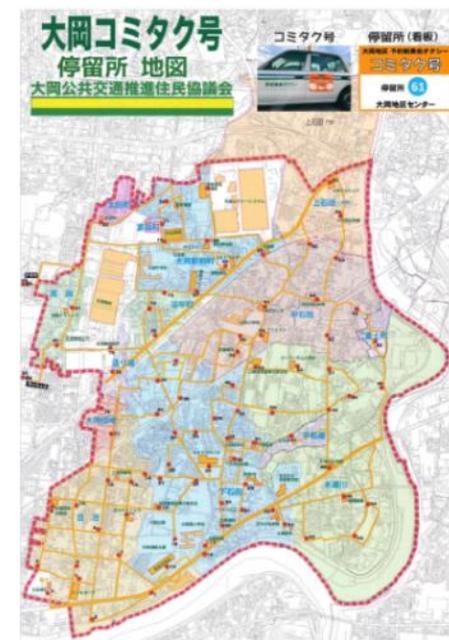
利用料金（1乗車） 大人：200円 小学生以下：100円 乳幼児：無料

出かける時(例)
 予約受付 ☎055-984-1280
 会員登録の1時間前までに電話予約をお願いします。
 乗車時刻の1時間前までに電話予約をお願いします。
 乗車時刻の1時間前までに電話予約をお願いします。

帰る時(例)
 予約受付 ☎055-984-1280
 乗車時刻の1時間前までに電話予約をお願いします。
 乗車時刻の1時間前までに電話予約をお願いします。

●ご予約はご利用日の24時間前から乗車時刻の1時間前までにお願ひします。
 ●F.O.O.前までに到着したい。車のご要望にはお応えできません。
 ●乗車時刻には必ず「乗車所」でお乗り下さい。（乗車を持ってお出掛けください）
 ●乗車時刻の乗車所が変更となり、送迎に行く乗車所が異なります。
 ●乗車所には必ず会員登録を携帯してください。
 ●予約料のキャンセルは、乗車時刻30分前までにご連絡してください。ご連絡が無い場合は、キャンセル料200円が発生いたします。

予約受付 伊豆箱根タクシーグループ ☎055-984-1280
 発行：大岡地区自治会・大岡地区公共交通推進住民協議会



【今後の展開】本格運行開始に向け、内容を引き続き協議。

沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
Ⅲ わかりにくさ 使いにくさ 解消	Ⅲ-①	沼津駅南口バスターミナル再編	R2~3	事業者別バス停を行き先方面別に再編	引き続き、利用者がわかりやすい利用環境を整える。
	Ⅲ-② ⑧	沼津駅バスターミナル発着ダイヤの調整 利用しやすい運賃体系への見直し	R2,4	R2：沼津駅ー沼津港発着バスのダイヤ調整 R4：3番乗り場（西浦・伊豆長岡駅方面）のパターンダイヤ化・等間隔運行	取組みを効果的に周知し、他の乗り場についても順次調整する R5:3番乗り場（西浦・伊豆長岡駅方面）のパターンダイヤ化・等間隔運行・共通定期券化の検討をしていく
	Ⅲ-③ ⑨	バス停位置等見直し・改善 バス停環境改善	R2~	R4:危険バス停Aランク東原新田（西向き・富士急行バス）を改善	他バス停も引き続き、改善に努める
	Ⅲ-④	バス停案内表示の統一	R2~	R2：バス案内表示デザインマニュアルの作成。 R3~：バス案内表示デザインマニュアルに基づき沼津駅南口バスターミナルバス停デザイン統一+各事業者がバス停のヘッドを更新	市街地を中心に実施できる箇所から統一を図る
	Ⅲ-⑤	運行情報のデータ化と活用	R2~3	R2~3: バス利用環境向上設備導入支援（バスロケ・IC決済機器導入費補助） R3:沼津駅南口デジタルサイネージ設置	引き続き、利用環境を整える。運行情報を活用してもらえるよう周知を強化していく。
	Ⅲ-⑥	デジタルサイネージの設置			
	Ⅲ-⑦	支払方法、乗車方法の見直し			
	Ⅲ-⑩	バスターミナルの環境改善（原駅）	R4	原駅バスターミナル整備実施	わかりやすい案内表示、掲載内容の更新に努める

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト

Ⅲ-①沼津駅バスターミナルを行き先方面別へ再編 ⑥デジタルサイネージの設置

沼津駅南口バスターミナル再編【R2・3】

【内容】

- ・従来、事業者別となっていた乗り場を行き先方面別に集約。
- ・方面が近い路線は隣同士に配置することとし、一体的な利用を可能にした

沼津駅南口デジタルサイネージ設置【R3】

- ・沼津駅南口改札前にバス運行情報（乗り場、方面、系統、時刻等）を表示する「デジタルサイネージ」を設置
- ・各バス事業者が整備するオープンデータとリンクさせ、沼津駅発のバス運行情報を表示
- ・市HPからもデジタルサイネージの表示内容は確認可能

【効果】

- ・乗り場の再編：誰もが分かりやすく使いやすいバス利用環境を創出
- ・デジタルサイネージの導入：サイネージ前では、利用者が運行情報を確認している姿が多くみられる

【今後の展開】

- ・引き続きバスターミナルの環境改善に努める。
- ・運行情報のデータ化をするだけでなく、実際に情報を活用してもらえるよう周知を強化していく。



乗り場	方面	行き先
1	沼津港方面	沼津港 明電舎
2	我入道・ 下香貫方面	外原温水プール 我入道循環 木の宮循環/下香貫循環
3	西浦・ 伊豆長岡駅方面	多比/伊豆長岡駅 木負/江梨/戸田 大瀬岬(江梨乗継)
4	大平方面	沼商/大平車庫/大平
5	清水町方面	三島駅/三島田町駅 静岡医療センター循環
6	大岡方面	三島駅 大岡循環 緑ヶ丘循環/北市内循環
7	門池・ 免許センター方面	高尾台/免許センター あしたか運動公園 拓南東/沼津ゴルフ場 北小林/がんセンター
8	ららぽーと・ 市立病院方面	市立病院/ららぽーと 柳沢/東平沼
9	片浜・原方面	原団地/東田子の浦駅 市立病院/ららぽーと
10	スクールバス	沼津東高校 暁秀高校
11		



4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト

Ⅲ- ⑤運行情報のデータ化と活用 ⑦支払方法、乗車方法の見直し

バス利用環境向上設備導入支援【R2・3】

【内容】

- ・バス事業者が導入するバスロケーションシステム、IC決済システム等、利用環境向上のための設備投資を支援
- ・バスロケ・IC決済システム導入は、伊豆箱根バス30台分・東海バスに60台分導入支援。

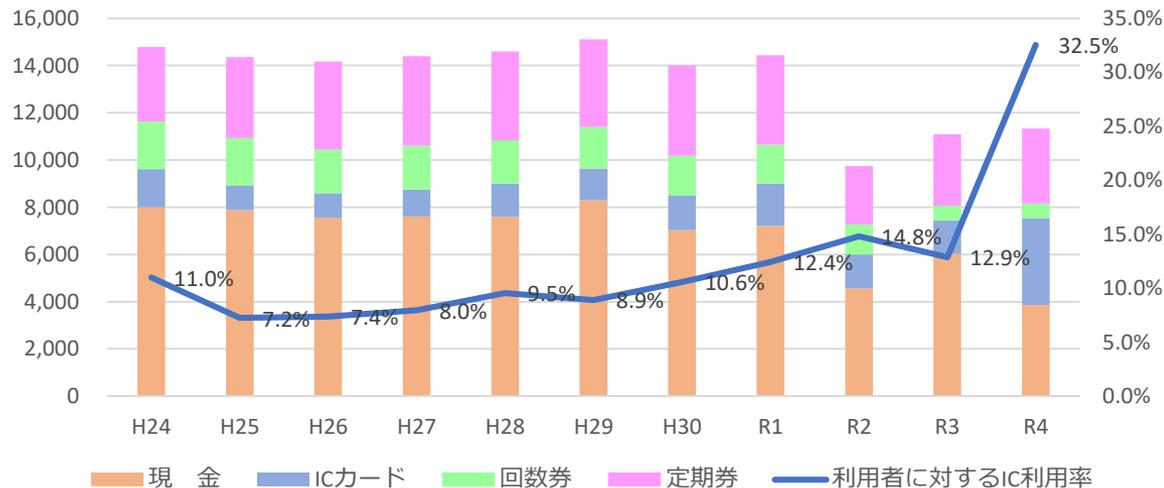
【効果】

- ・バスロケ：運行情報を身近にチェックできるように
- ・IC決済システム導入：コロナ禍に対応した非接触での決済方法となり、コロナ前のIC決済は、約10%であったが、導入後のR4年度には、約33%と利用率があがった

【今後の展開】

- ・運行情報のデータ化をするだけでなく、実際に情報を活用してもらえるよう周知を強化していく
- ・IC決済について周知し、支払方法のわかりにくさを解消する

支払方法の推移



出典：伊豆箱根バスHP



出典：PINA-WEB（東海バス）

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト外	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
IV楽しいおでかけ創出	IV-①	路線図・時刻表の作成	R2~	毎年、路線再編・変更を反映したおでかけマップの作成	最新情報を掲載するよう毎年度更新に努める
	IV-②	企画乗車券等の検討	—	高齢者や高校生向けの企画乗車券を交通まちづくり検討部会で議論	引き続き実施に向けた検討を進める R5には、学生向けフリーパスの販売を実施
	IV-③	ビリティマゼジメント実施・パンフレット作成	R2~	毎年、学生(小・中・高)向けの出前講座実施。 R4:小学校低学年・成年者向けパンフレットの作成。	体験型の出前講座に工夫。 大人向けの出前講座の実施に努める
	IV-④	共同案内所の設置	—	バス案内所の統一について、各交通事業者と検討には至らなかった	引き続き、検討をしていく

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

Ⅳ. 楽しいおでかけ創出プロジェクト

Ⅳ-③バスイベント・企業・地区セミナーなどの開催

モビリティ・マネジメント[R2-R4]

【内容】

・渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを賢く使う方向へと自発的に転換すること促す出前講座の実施

・小学生向け・成年向けパンフレット作成 (R4)

【実績】

・小学生：バス乗り方教室や紙芝居による出前講座を実施

・中学・高校：公共交通のメリットをスライドで説明
路線図を使いバスでのおでかけをしてみる授業を実施。

＜表：バス教室の実施回数と参加人数＞

	回数	人数 (小中高生)
R2	4回	128人
R3	12回	451人
R4	8回	210人

【効果】

・一部小学校の生徒から、御礼や感想を書いた手紙が届き、バスに乗ることなどに対する興味やバスに乗るメリットへの理解を広める契機に

・小学校の先生の口コミでバス教室が小学校に浸透⇒
バス教室受講後は、三島市の楽寿園まで公共交通を使ってお出かけする学習も

【今後の展開】

- ・バス教室受講者の保護者に向けてMM効果検証アンケートの実施
- ・紙芝居もパンフレットに合わせた内容にリニューアルし、自宅に帰ってからパンフレットにてバスの乗り方の復習できるように工夫
- ・パンフレットやおでかけマップを活かし、受講者が手を動かし、路線バスを実際に利用してみるよう体験型の講座内容にする工夫をしていく
- ・併せて、企業や自治会など成年者へのモビリティ・マネジメントの推進

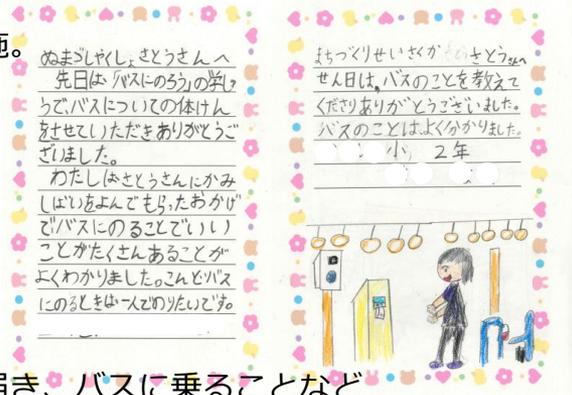


バス車内から見る
洗車体験は人気
内容のひとつ

運賃の支払い
を実際に体験



各社協力のもと、それぞれ内容を工夫していただいて実施。
車椅子の方の乗車方法について実際に乗ってもらい説明



中学生→路線図を使い、バスを使っておでかけをしてみる授業内容に工夫



↑モビリティ・マネジメントパンフレット

沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
V 沼津駅-沼津港連携	V-①	新たなモビリティの活用	R4	駅-港間に7箇所のポートを設置した電動キックボードを活用した社会実験を実施	利用等が多く需要が確認できた一方で、安全性に対する意見も一定数あった。今後の法施行等の動向を注視する
	V-②	新技術の検証（自動運転）	R2,4	静岡県と協力し、自動運転に関する実証運行を実施	引き続き、自動運転に関する実証運行ができるよう県と調整する
	V-③ ④	沼津港バス乗り場集約 デジタルサイネージ設置	R4	東海バス・伊豆箱根バスのバス停を1つに集約するとともに、沼津みなと新鮮館入口に路線バス出発案内デジタルサイネージを設置	バス利用者の利便性向上に繋がるものであり、他施策と連携し実施することで、更なるバス利用者の確保に努める
	V-⑤	路線バス利用者の確保	R4	沼津港入口に車番認証カメラを設置し、車両の滞在時間や地域などを分析	公共交通で沼津港に来訪する方の調査を検討し、車番認証カメラの分析結果と比較することで、路線バス利用者確保を図る。また、乗車券と各種サービスをセットとした企画乗車券の発行について検討する

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

これまでのプロジェクトにおける具体的な取り組み

V. 沼津駅-沼津港連携プロジェクト

V-③沼津港バス乗り場の集約、V-④デジタルサイネージ設置（沼津港）

沼津港バス乗り場の集約、デジタルサイネージ設置（沼津港）【R4】

【内容】

- ・バス事業者2社（東海バス・伊豆箱根バス）の乗り場は離れて設置されており、時刻表を確認するため、バス停間を行き来する必要がありました。利用者の利便性を高めるため、バス乗り場を集約するとともに、路線バスの出発時刻を案内するデジタルサイネージを設置。
- ・サイネージに表示する運行データ（※G T F Sデータ）整備は、バス事業者が行い、サイネージの管理等を沼津市が実施。※G T F Sデータとは、各バス会社が保有するバス運行情報データについて、国土交通省が示す標準的なバス情報フォーマットにより整備したデータのこと。

【効果】

- ・本事業実施後、沼津みなと新鮮館受付の方から「バスに関する問い合わせが減った」という意見をいただいた。これは、バス停を1本化したうえで伊豆箱根バス、東海バスの運行情報をまとめて提供したことで、利用者にとって従来よりもわかりやすい案内が出来るようになったためだと考えられる。

【今後の展開】

- ・バス利用者の利便性向上に繋がるものであり、他施策と連携し実施することで、更なるバス利用者の確保に努める



伊豆箱根バス・東海バスの乗り場を集約



沼津みなと新鮮館入口にデジタルサイネージの設置



沼津市地域公共交通計画の目標を達成するための事業実施

プロジェクト外	No	施策内容	実施年度	実施内容・未実施理由	考察・今後の取組み
VIいつでも 安心・安全	VI-①	災害発生時の運行継続の仕組みづくり	-	災害時を想定した体制づくり、仕組みづくりについて、各交通事業者と検討には至らなかった	必要な情報の収集、議論すべき項目を洗い出し、各交通事業者と検討する
	VI-②	感染症などの危機事象への対応	R2~	市では、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した利用促進事業や事業者に対する運行支援事業を実施。また、各交通事業者も車内衛生管理など感染症拡大防止対策を実施	引き続き、市と交通事業者が連携し、利用者が安心して公共交通を利用できる環境の確保に努める

4. 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

VI. いつでも安心・安全プロジェクト

VI-②感染症などの危機事象への対応

コロナ禍での取り組み（～令和4年度）

新型コロナウイルスの影響による外出機会の減少、公共交通利用の減少に対する対策として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した利用促進事業や事業者に対する運行支援策を実施 ※赤字はR4年度実施事業

	事業名	概要
利用促進	宿泊者バス・タクシー利用促進事業	市内宿泊施設の宿泊者へ、公共交通（バス・タクシー）共通利用券500円分を無料配布 実施期間：令和2年9月11日～12月15日 利用総額：2,223,200円
	高齢者バス・タクシー利用促進事業	65歳以上の高齢者へ、公共交通（バス・タクシー）共通利用券3,000円分を無料配布 ・第1弾 令和2年12月4日～令和3年2月28日 利用総額：101,299,900円（利用率55.3%） ・第2弾 令和3年4月1日～令和3年9月30日 利用総額：127,452,800円（利用率66.6%）
	全世帯バス・タクシー利用促進事業	市内全世帯へ、公共交通（バス・タクシー）共通利用券3,000円分を無料配布 ・第3弾 令和4年2月中旬～令和4年9月30日 <ul style="list-style-type: none"> 利用総額：172,606,400円（利用率62.0%） 高齢者：92,029,700円（利用率70.1%） 一般：80,576,700円（利用率54.8%）
感染防止対策	バス・タクシー感染拡大防止支援事業	感染拡大防止のための備品（消毒液、マスク等）購入費として、バス車両1台2万円、タクシー車両1台1万円を上限として補助
設備導入支援	路線バス利用環境向上設備導入促進事業(再掲)	キャッシュレス化やいわゆる「3密対策」などを目的とした路線バスの利用環境向上に資する設備（バスロケ・IC等）の導入に係る費用を補助 ・国庫補助1/3を除いた経費の10/10
事業継続支援	路線バス動力費補助事業	緊急事態宣言等による外出自粛期間や臨時休校期間（R2.3.1-5.31）の運行に対し、路線バスの燃料代を補助・3/4（※静岡県補助対象期間は1/4）を補助
	路線バス運行維持支援事業	路線バス事業者に対し、市内を運行する路線バスの1日当たりの実車走行の総距離（km）に1万円を乗じて得た額を支援金として交付
	バス・タクシー燃料高騰対策補助事業	バス・タクシーの事業継続を支援するため、燃料価格高騰に対する支援として、保有車両に対して補助金を交付 ・バス車両10万円/台、タクシー車両5万円/台